



## contents



### 特集 ヤマトグループの環境保護活動「ネコロジー」

- ネコロジーについて
- 輸送(包む、運ぶ、届く)のエコの取り組み
- 施設のエコの取り組み

### 新着情報

## 特集 ヤマトグループの環境保護活動「ネコロジー」

### ネコロジーについて

# ネコロジー

環境にやさしい、物流をつくろう。

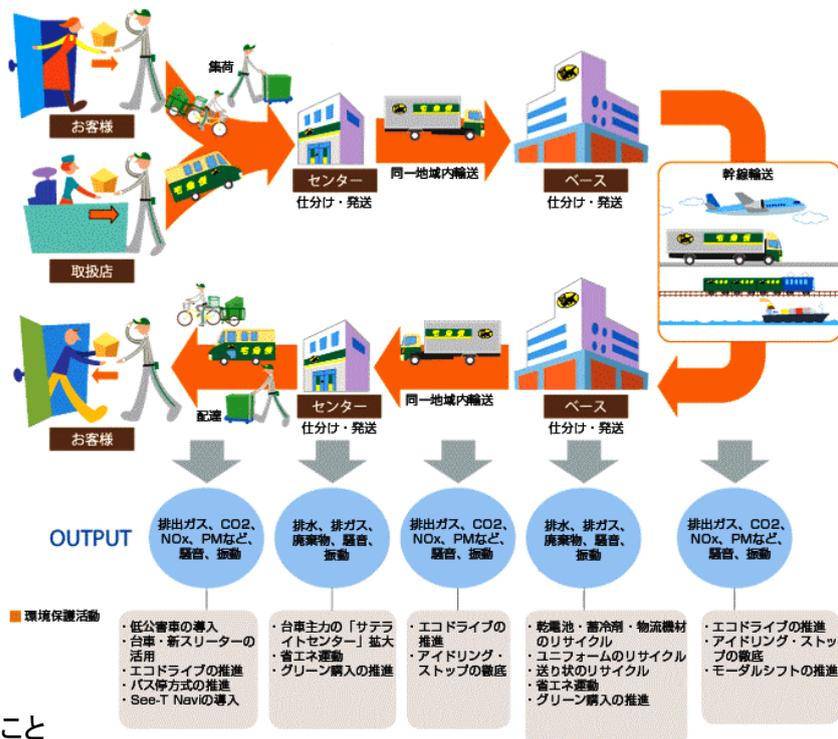
クロネコヤマトのエコロジーは「ネコロジー」。

ヤマトグループでは20年以上前から環境保護活動に取り組んでいます。モーダルシフトの推進や低公害車の導入、車両を使わない集配モデルの進化やエコドライブの推進など、その活動は多岐に渡ります。

2012年より、限りある資源を大切に、より環境に良い取り組みを実施していくヤマトグループの環境保護活動の総称を「ネコロジー」と名付けました。ネコロジーには、3つの想いがあります。

1. ヤマトグループの社員は、一人ひとりが常に環境保護の意識を持って、日々の業務に取り組みます。
2. 運送の「包む」「運ぶ」「届く」はもちろん、その他のさまざまな取り組みを徹底的にエコロジー化し、環境にやさしい物流の仕組みを築きます。
3. クロネコヤマトをご利用いただくたびに、お客さまの環境保護の想いをかなえられるように、常に環境にやさしいサービスを考え続けます。

また、今年4月には「人権・労働・環境・腐敗防止」の4分野10原則を掲げる国連と企業の協力の枠組みである「国連グローバル・コンパクト」への加盟や、「環境保護宣言」を改訂しました。「環境保護宣言」の改訂では、「ネコロジー」の理念に基づき社員一人ひとりが取り組むこと、それらを4つのカテゴリ(輸送のエコ、施設のエコ、商品のエコ、地域とのエコ)に分け、あらゆる場面の環境保護活動を明示しています。



- ・「輸送(包む、運ぶ、届く)のエコ」  
環境にこだわった輸送を実現すること
- ・「施設のエコ」  
施設の省エネ化を推進すること
- ・「商品のエコ」  
環境に配慮した商品を展開すること
- ・「地域とのエコ」  
地域の皆様と環境コミュニケーションを強化すること

今回はこの4つの重点事項のうち、「輸送のエコ」「施設のエコ」についての具体的な取り組みをご紹介します。



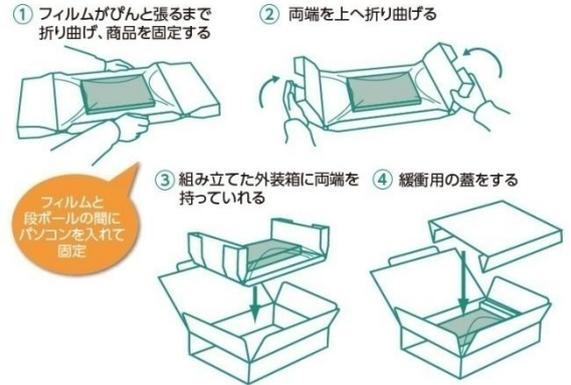
### 輸送(包む、運ぶ、届く)のエコの取り組み

#### 【包む】包装資材の減量や素材の工夫によって「荷物の保護」と「環境保護」を両立

ヤマト包装技術研究所では、お客様の荷物や輸送手段に合わせてこの2つの「保護」を両立させる適正な包装資材をオーダーメイドで開発しています。例えば、精密機械などの輸送には衝撃をやわらげる「緩衝材」が必要ですが、荷物の箱のサイズが大きくなってしまいます。また必要以上に緩衝材を減らしたり、他の素材に変えてしまえば、荷物を衝撃から守るという大切な役割が果たせなくなります。

パソコンレンタル事業者様からの相談事例では、「包装資材から発泡緩衝材を廃止してリサイクルを容易にしたい」、「資材のサイズを縮小して物流に関わるコストとCO2を削減したい」との要望を頂きました。そこで、段ボールに特殊なフィルムを熱融着して精密機械などをその間に固定する方法を採用。さらに段ボールのフタを重ねることで、発泡緩衝材なしでそれと同等の緩衝性を確保することに成功しました。その結果、資材コスト約20%減、保管・輸送にかかる体積も約20%減らすことができ、輸送コストとCO2の削減に成功しました。

#### 包装資材の工夫のポイント



#### 【運ぶ】ボックス単位での共同輸送でCO2の排出量を削減する仕組みを構築

従来、コピー機やATMなどの輸送では、トラック1台を貸し切る「チャーター便」を使う必要がありました。荷物が少ない時は積載効率が悪く、輸送コストの上昇はもちろん多頻度輸送によって環境負荷も問題になっていました。

2006年、ヤマトホールディングスは、全国の各エリアで強みを持つ物流企業14グループと共にJITBOXチャーター便事業を開始しました。各社がお客様から荷物をロールボックスパレット単位で預かり、幹線輸送の拠点に集約して、全国各地に輸送するという仕組みです。これにより、荷台の空きスペースが無くなり、輸送に使用するトラックの数も減少。輸送時のCO2排出量を削減する仕組みを構築しました。



また、大型の機械を運ぶ時は木枠で梱包して輸送していましたが、ヤマト包装技術研究所と共同で、物品の形状に合わせてフィットする柔軟な成型機能と緩衝機能を持つリターナブル資材「魔法のふろしき (FLIX)」を備えつけた「Fitガード・Fitボード」を開発しました。参加企業間を流動させて再利用することにより木枠梱包の「廃材ゼロ」を実現、年間推計約51,000キロプログラムの削減効果を生み出しました。2013年には第14回(社)日本物流団体連合会の物流環境大賞において「物流環境負荷軽減技術開発賞」を受賞しました。



車両に積み込むロールボックスパレット【左】  
「魔法のふろしき」を備えつけたFitガード・Fitボード【右】



### 施設のエコの取り組み内容

①グリーン購入やリサイクル、ペーパーレス化などを推進 ②自然の力などを活用し、施設の省エネ化を推進 ③社員一人ひとりがエネルギーを大切に、省エネ活動を実施しています。

#### 羽田クロノゲートでの発泡スチロールの減容・リサイクルの取り組み(ヤマトホームコンビニエンス)

引越や、大型家具家電の配送・設置、家の中のおかたづけサービスといった生活支援を行うヤマトホームコンビニエンスでは、今年5月より、引越や家電の運搬で出た発砲スチロールの減容に取り組んでいます。お客様にとってゴミとなる発砲スチロールを引き取り、減容機を使用して粉碎・圧縮・減容。この取り組みにより、ゴミが産業廃棄物から再生資源化物へと生まれ変わり、CO2削減に役立っています。現在は、羽田と世田谷の2支店で出る約200t／店の発砲スチロールが子供のおもちゃやCDケース、シャープペンの素材として活用されるインゴット(のべ棒のような板)に加工されています。



集められた発砲スチロールはガムテープ等を剥がし分別する



分別した発砲スチロールを減容機へ投入



粉碎・圧縮・減容された発砲スチロールは約15～20分で1本完成

#### 最新鋭の物流ターミナル「羽田クロノゲート」の取り組み

昨年稼働した羽田クロノゲートでも様々な取り組みを行っています。「ボイド」と呼ばれる吹き抜け穴による自然採光・自然換気の物流棟各階への取り込み、太陽光発電、雨水再利用などの環境に配慮した設備を導入。BEMS(ビルディングエネルギー管理システム)によるエネルギー管理も実施しています。また、敷地内には自然環境と調和し様々な生態系を育む「和の里」を設けています。今年5月には、従来の施設に比べCO2の排出量を約46%削減、年間で14,000t削減できる自然エネルギーを利用したターミナル施設「羽田クロノゲート」の建設を含む環境保護活動が評価され、第15回「物流環境大賞」を受賞しました。





## 新着情報

ヤマトグループ各社、各地域、環境への取り組み等を紹介します。

### 【ヤマト運輸】秋田県観光連盟と観光振興を目的とした「包括的連携協定」を締結

3月に秋田県観光連盟と、観光客の利便性の向上、県産品のPR・情報発信の強化、および地域の活性化等に向けた協定を締結。現在3つの新しい取り組みを始めています。

1. 駅ナカなどの観光案内所にて手荷物のお預かりサービスと、夕方までに宿泊施設にお届けする「あきた手ぶら便」の提供
2. 県内の34の営業所での観光案内業務
3. 角館や田沢湖の観光名所、案内図が描かれた観光用スリーター・台車による集配



### 【台湾ヤマト】赴任中の生活をサポートするラウンジ(相談所)を台北に開設

7月より、台北在住の日本人の生活をより快適にする「クロネコヤマト生活情報ラウンジ」が本格稼動しました。ラウンジでは、常駐している日本語対応スタッフが、生活の立上げ(銀行口座開設・学校案内・携帯電話申請等)、帰任(帰国セミナー・海外引越手続き等)、生活・レジャー(不動産・語学学校・日本語対応病院・観光スポット・レストラン・各種イベント等)についての情報を提供し、赴任中、海外で快適にお過ごしいただけるようサポートします。



### 【ヤマトオートワークス】次の10年につなげる、技術・知識を競い合うメカニックコンテストを開催

設立10周年を迎えたヤマトオートワークスでは、培った技術、顧客や地域からの信頼、同僚・仲間とのチームワークを次の10年に継承できるよう『技術、信頼、チーム』をキャッチフレーズにメカニックコンテストを開催しました。2人1組で行なわれたコンテストでは、整備と法令知識を問う学科試験、整備技術審査、応対力審査を実施。全国から約130名の整備士が参加しました。山口工場勤務する車両メーカー勤務の経験がある山縣さんと責任感が強い若手の倉益さんのコンビが見事優勝を果たしました。



### 【ヤマト運輸】小学生向けのリアルな体験教室「サガニア」を開始

佐賀主管支店では、従来の「子ども安全教室」を発展させ、交通ルールのみならず職場での体験を通じて、働くことの楽しさを伝える体験教室「サガニア」を開始しました。佐賀県内の小学生を対象に物流の仕組みを学ぶだけでなく、挨拶訓練や荷物の集荷・配達、ターミナルでの仕分けなど、宅急便の仕事をリアルに体験する機会を提供し、好評を頂いています。



### 【ヤマトホールディングス】童声(女声)合唱組曲「あめつちのうた」の楽譜を出版

本物のいい音楽を年齢や地域を超えてすべての人にお届けする、音楽宅急便「クロネコファミリーコンサート」。その取り組みに共感いただいた作家・国文学者の林望氏の作詩、作曲家上田真樹氏の作曲により書き下ろされた「あめつちのうた」は、2013年の初演以来、本コンサートにおいて地元児童合唱団とプロオーケストラの協演により全国各地で演奏され、好評をうけて今年7月には楽譜が出版されました。(発行: 全音楽譜出版社 全音判/40頁/定価¥1,500+税)